

授業科目名	旅行産業論	担当教員	小熊 英国
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2 年 第 1 クォーター		
講義内容	日本における旅行産業、特にインバウンドは今後の成長が期待されてる。本科目では、観光立国推進政策の中核的産業である旅行産業を取り上げ、旅行市場の現状、旅行会社の経営、営業販売、商品造成、関連ビジネスなどの実例・実態を踏まえ、旅行産業の課題と展望を講義する。旅行業の現状、経営及びマーケット特性なども概観し、そのうえで、法人旅行、個人旅行、グローバル事業について講義し、あわせて旅行産業の各分野に関する課題整理と将来を展望する。		
到達目標	将来、旅行産業・観光産業において経営者等中核的な役割を担う人材の育成を目標として、主に旅行産業の現状と課題、将来への展望などを理解する。		
授業計画	1. オリエンテーション 2. ツーリズム産業について 3. 海外旅行商品企画（事例 JALPAK, JTB LOOK 等） 4. インバウンドツーリズム（事例 京都 FUJITAYA ル等） 5. クルーズ商品（事例 飛鳥Ⅱ） 6. MICE とビジネストラベル 7. 地域交流ビジネス(ゲストスピーカー 高知工科大学 高畠 猛嗣氏等予定) 8. アウトドア商品について（ゲストスピーカー 三浦事務所 三浦修） 9. 旅行産業のサービスコンセプトについて（ゲストスピーカー Bodytune-Partners. inc 代表 阿部雅行氏等予定） 10. ホテルビジネス 事例 リッツカールト（ゲストスピーカー VIP コンシェルジュ 鈴木隆夫） 11. 旅行産業商品の 4P 等について 12. 総括		
事前・事後学習	前回の授業内容を復習し、授業に臨むこと		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	特に指定しない		

成績評価 の 基 準	授業態度 70%：出席、遅刻の有無、発表・発言・ディスカッションの質・量等 期末レポート課題 30%
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	観光分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	履修人数の定員を超えた場合の選考方法については、最初の授業等で説明する